

ちぐり屋自慢

小宮山栄

## モノづくり屋はなぜ面白い ウソ・ゴマカシなし

日本のモノづくり屋は、もっと尊敬されるべきではないだろうか。江戸時代は「士農工商」として工は商より上位に位置づけられていた。また日本人と中国人に詳しい邱永漢氏によると「日本人は職人、中国人は商人」という話があった。

モノづくり屋と政治家、役人、金融、マスコミ、流通などとの基本的な違いは何だろうか。

モノづくり屋の世界では、モノができてしまったらウソやゴマカシは絶対に効かない。最近ではパロマ工業、松下電器産業、ソニー、三菱自動車などが問題を起こした。数人の被害者が出ただけでも商品を全部回収して、再発防止に全力をあげなければならない。

この時、モノづくりではどうしてそうなったのか、原因を徹底的に究明することが不可欠となる。それが甘いと会社がつぶれてしまう。モノづくり屋は原因究明、再発防止という真実の追究ができることが必要条件になる。

それに比べ保険金不払い事件など、あんなに悪いことをしても1年もたつとみんな忘れてしまう。政治家の世界でも悪いことをしても選挙で勝てば、ほとんどの人は忘れてくれる。モノづくりはウソやゴマカシが効かない。だからこそ面白いのであり、尊敬されるべきである。

役人について言えば、彼らの国会答弁はきわめてつまらない。本当に自分が考えていることをしゃべったら、大変なことになるからだろう。例えば「やってみなければわかりませんよ」という言葉は新商品や新技術開発、新市場開拓では当たり前だ。だが、もしそんな答弁をしたら「そんないい加減なことならやめてしまえ」とあげ足をとられるのがオチだ。

このため、かなり頭のよい人でないと役人は務まらない。優れた調整能力が必要だが、面白い仕事ではない気がする。

## 「なぜ」のない奴はダメ 顧客の立場で考える

人生でモノづくりの楽しさを本当に味わったのは本田宗一郎氏だと思う。『デザイン「こと」始め—ホンダに学ぶ—』（岩倉信弥著）によれば「20年近く前、私たちが仕事をするデザインルームに遊びに来られた本田さんが、『日本人はなぜ富士山が好きなんだろうね』とおっしゃった。ずっと昔から、本田さんの問いには即答するというのが体に染みついているから、とっさに『美しいからじゃないでしょうか』と、あ

まり上手でない答えをした。するとさらに『どこがどういう風に美しいんだ』と聞かれて答えに窮した」とあった。その後、著者は「なぜ」「なぜ」と考え続け、出した結論が非常に面白かった。

今、著者は多摩美術大学教授とし「!？」<sup>注</sup>のマークを作り、「これのない奴はこの教室へ入るな」とやっている。

コミーも「なぜ」と言う奴だけを募集したことがある。「なぜのない奴はダメだ」とある会合で話したら、「うちの会社でなぜなどという言葉を使ったら怒られる」と言う人がいて、私の方がビックリした。「こんなことを考えるより、おまえは1票でも増やせ」「うまく答弁しろ」「売り上げや利益を増やせ」の世界の方が一般的なのかも知れない。

モノづくり屋には少なくとも2種類の大切なお客さんがいる。それは「お金をくれるお客さん」と「モノを使ってくれるお客さん」である。コミーでは「両方大切だが、使ってくれるお客さんの方が大切」と宣言している。そうだとお金をくれるお客さんも安心してくれる。

ホンダは「創る人、売る人、使う人」がそれぞれ喜びを得ることを目的にしているという。つまり三方に喜びをつくるのが目的である。しかし商業の場合よほどの哲学がないと、こちらがもうかったら相手が損する関係になってしまうことが多い。

昔、パチンコ屋の経営者に聞いたが、玉を出せば客は喜ぶが、こちらは損をする。絞めればもうかるが客が入らなくなるという。そのためには、だましたり駆け引きをする能力がなければ務まらないだろう。やはりモノづくり屋の方が喜びが多いと思う。



**注：<多摩美術大学プロダクトデザイン科パンフレットより抜粋>**

「!？」を科の旗印にしています。「!？」は、「?」と「!」を合わせたもので、「?」はQuestionで「探究心」、「!」はExclamationで「感嘆」、「不思議がる心」と「感動する心」で「好奇心」とも言えます。科の入り口にこれを掲げ、この心を一番大事にしています。こうした心をもって、世界のプロダクトデザインを先導できる科に、みんな育てていきたいと考えています。

## 最高峰は宮大工棟梁 技 応援のビジネスを

モノづくり屋の最高峰は宮大工棟梁ではないだろうか。『木に学べ』(西岡常一著)によれば薬師寺には西塔と東塔があり、著書は西塔を復元、再建した。

「大地震があって東塔がゆがんだまま建っているのに西塔が倒れたということになったら、つくった私は生きていられないですね。腹切って死ななければなりません」

「室町の時にゆがんだものが直しきれなかったんだと思います。明治の時に解体修理しておれば直りそうですが、金はたくさん使ったけど、そこまでいかなかったんでしょ。ずさんなやり方だったんですな。しっかりした棟梁がいなかったということでしょうな」。

1300年前の大工さんの作品を見て、1000年後の人に自分が恥をかかないようにしようと本気で考えているのである。こうなると神様に近い。現にモノがそこにあり、説明でき、自分でやってみせられるから説得力があるのである。

手先の器用な日本人はこれからもモノづくりでしか生きられないと思う。これからはモノづくり屋だけでなく「モノづくり屋を応援するまじめなビジネス」がもっとできていいと思う。

『マネジメントとは何か ドラッカー学会追悼懇親会に寄せて』(ドラッカー学会編、非売品)によれば「人類の歴史をじわじわと、そして時には急激に変えてきたものは、政治的な事変、事件ではなく、技能、技術の進歩だ。狩猟の技術に始まり、稲や小麦の農業技術、灌漑の技術、衣食住にかかわるそれこそそろそろの技術、馬の鐙<sup>あぶみ</sup>、火薬、印刷、蒸気機関、鉄道、コンピューターなどだ。馬の鐙という技術さえ、騎士の成立を通じて封建制をもたらしたという。火薬がその封建制を崩し、中央集権への道を開いた。21世紀においても、カギを握るのはモノづくりの技だ」という。

「今の先進国が先進国の地位にあり続けるためには、理論の裏づけがある技能を維持していかなければならない。英国で産業革命が成立したのは、蒸気機関を可能にした工具製作技術があったからである」とあった。小泉さんや安倍さんより携帯電話や独自技術の方が、日本を変えていくかも知れぬ。

## 職業上 何を見つめるか 学んで誇り身に付く

企業や職業はいろいろあり、「人、物、金」のどこを深く見つめるかによって、自分が変わっていくと思う。「金」ばかり見つめている職業は何だろうか。それは銀行屋だろう。それでは「人」ばかり見つめている職業は何だろうか。それは政治家だろう。

どんなに立派でも票にならなければ政治家にはなれない。そのためには「金」を見つめることも必要である。

「物」をまず見つめなければいけないのは、モノづくり屋である。そのために「人」と「金」も必要である。しかしモノづくり屋から言わせてもらえれば、「金」というものはどこから来て、どこへ流れるかわからない。前工程、後工程の責任がない。

また「人」は、どんどん忘れる。この「人」と「金」を考えるだけで、まともな人間になれるだろうか。「物」も常に考えることが必要だろう。

耐震強度偽装事件では、「物」はマンションなのに「人」や「金」だけを見つめすぎて「物」を忘れたから、あれだけ社会から叩かれたのだろう。彼らは「人」「金」だけを見つめればすむような商売をしていれば、成功していたであろう。

モノづくり屋の場合は、いやでも過去の仕事が目の前に現れてくる。私は昔、看板塗装屋をしていたが、「下手な看板だった」とか「もう錆びてしまった」とか、お金をもらってかなり時間がたってからでも、反省して学習するのである。そこに誇りとか恥という概念が身に付くのである。

われわれモノづくり屋の限界はどこにあるだろうか。地球温暖化であと50年、100年たったら大変なことになる。モノづくり屋からすれば例えば車なら公害を出さず、資源を使わず、安全な車をつくることであろう。

そしてモノづくり屋ががんばって有害ガスの発生を3割減らし、燃費を3割良くしたとしよう。しかしインドや中国の人がジャンジャン車をつくり、今までの2倍、3倍に車が増えたら、加速度的に大変なことになる。そんな時は銀行屋や政治家の出番であると思う。

## 未来の人に役立つために 仕事は本当に面白い

人間とは何か？ パスカルの「人間とは考える<sup>あし</sup>葦である」と昔学んだ。また「人間は社会的動物である」との言葉もある。

われわれ人間は会社、家庭、地域、趣味などと縦社会と横社会があり、もんだり、もまれたりしながら生きている。ニートといえども、お金という社会がなければ生きてはいけない。

最近のテレビをみると猿でも思考をするし、社会的な動物である。しかも葦と違って弱い生物でもない。では人間と他の動物との違いをひと言でいえる言葉はないか？

人間は「手の動物」「時間の動物」「言語の動物」「宗教の動物」と清水馨八郎先生の本にあった。

以前、記したドラッカーの言葉と合わせて今回、凡人の私が「人間はモノづくりをする動物である」と定義してみた。モノが人間社会や地球環境までも支配するのである。モノづくり屋は「手」はもちろんだが「時間」つまり過去・現在・未来の認識語で鍛えられる。

例えばモノづくり屋ではおなじみである品質管理やカイゼン、「プラン・ドゥー・シー」、クレーム時の「原因究明、現状処理、再発防止」「前工程・後工程」などである。

一方で世界はモノづくりで便利になった半面、日本人が一瞬のうちに10万人近く殺された核兵器をはじめ、オゾン層破壊、地球温暖化など大量生物破壊の未来を人類の大半が心配するようになった。

この問題はバブルを大量発生させて箱モノしかつくれなかった連中には任せておけない。彼らは大もうけしたはずなのに「未来に良い社会をつくるための学校をつくらう」などの発想がまったくなかった。これは「過去・現在・未来」を考える時間能力のなかった一部(?)の銀行、保険屋、政治家、マスコミなどがお金を動かしていたからである。

昔、松下幸之助氏は商売はうまいが他社の真似が多かったため、マネシタデンキと呼ばれていた。しかし松下氏は日本の未来を考えて松下政経塾をつくり、その塾生だった人々がすばらしい政治家になっている。

モノづくり屋の夢は自分の哲学を政治までつなげることであると思う。モノづくり屋の言葉「後工程はお客様」すなわち、われわれの人生の後工程である未来の人類に役立つための仕事が本当に面白いと思う。

〈追記〉以上がモノづくり屋の立場からのモノづくり自慢でした。

最後まで私の「文」を見つけてくれてありがとうございました。

(本稿は2006年11月17日~12月15日、日刊工業新聞に5回にわたり掲載した内容の転載です)